

教養教育科目

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
文学・文化学 I	全学科選択	1・3・5・7	2	高橋秀晴
授業の目標	<p>明治・大正・昭和の日本文化の軌跡を、文学作品に現れた作家の問題意識を通して捉える。その作業により、人生の普遍的意味について考察することを目指す。なお、具体的到達点としては、以下の三点を想定している。</p> <p>(1) 日本近代文学の基本的方向性について理解できる。</p> <p>(2) 小説の読み方に関する基本的理論を理解できる。</p> <p>(3) 太宰治作品の特徴が指摘できる。</p>			
授業の概要・計画	<p>第1週 オリエンテーション① 文学という芸術形式の特徴、及び、教科書、講義形態、評価について説明する。</p> <p>第2週 オリエンテーション② 坪内逍遙・二葉亭四迷・森鷗外の登場、日本自然主義文学、プロレタリア文学等を中心に日本近代文学の流れを概説する。</p> <p>第3週 太宰治の文学活動を概観する。</p> <p>第4週 「燈籠」 … 私生活と創作活動の関連について考察する。</p> <p>第5週 「姥捨」 … 作品に託されたメッセージについて考察する。</p> <p>第6週 「黄金風景」 … 作中人物の証言の作為性について考察する。</p> <p>第7週 「畜犬談」 … 作品の設定意図について考察する。</p> <p>第8週 「おしゃれ童子」 … 作品に於ける事実と虚構の問題について考察する。</p> <p>第9週 「皮膚と心」 … 女性一人称という語りの方角について分析する。</p> <p>第10週 「鴉」 … 時代背景との関わりを中心に作品を解析する。</p> <p>第11週 「善蔵を思う」 … 作中に潜在する不安について考察する。</p> <p>第12週 「きりぎりす」 … 方法としての自己批判の意義を検証する。</p> <p>第13週 「佐渡」 … 紀行文の特質について考察する。</p> <p>第14週 「千代女」 … 作品の背後にある文学観について考察する。</p> <p>第15週 期末試験（筆記用具持参のこと。）</p>			
成績評価の方法	<p>○試験（またはレポート）・発表・出席状況等によって総合的に判断する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>○開講時に指定する。</p>			
履修上の留意点	<p>○対象とした作品について発表し合うという演習形式を採る。</p>			
備考	<p>○講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名																																													
哲学・倫理学Ⅲ	全学科選択	1～8	2	紺野 祐																																													
授業の目標	<p>「科学哲学と科学論」</p> <p>本講義では、科学哲学の代表的な思想と論議を概観しつつ、科学の方法と目的への（自己）理解を深めることを基本的な目的とする。その過程で以下の目標の実現が期待される。</p> <p>①科学的なものの見方の特徴な点を、学問的な手続きに則って理解する。</p> <p>②科学的なものの見方を理解することにより、「正しい考え方」の諸方略を考察する。</p> <p>③哲学的なものの見方から、科学がもつ意味と有効性を理解する。</p> <p>④哲学的なものの見方から、科学の限界、あるいは科学から派生してくる問題を考察する。</p>																																																
授業の概要・計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本授業の目標と内容</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>第1節 科学哲学のねらい</td> <td>科学と哲学：起源と差異</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td></td> <td>自然主義の哲学</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>第2節 科学の方法の検討</td> <td>科学の特質：理論と経験のバランス</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td></td> <td>演繹的推論の方法と特質</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td></td> <td>帰納的推論の方法と特質</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td></td> <td>相関と因果</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td></td> <td>仮説演繹法の方法と特質</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>第3節 帰納の正当化と反証主義</td> <td>帰納をめぐる難問と科学</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td></td> <td>帰納の正当化の試み</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td></td> <td>反証主義と科学</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>第4節 科学的实在論</td> <td>科学的实在論論争の概略</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> <td>「観察不可能な理論的対象」の扱い</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td></td> <td>科学的合理性の正当化の試み</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>学期末試験</td> <td></td> </tr> </table>				第1回	オリエンテーション	本授業の目標と内容	第2回	第1節 科学哲学のねらい	科学と哲学：起源と差異	第3回		自然主義の哲学	第4回	第2節 科学の方法の検討	科学の特質：理論と経験のバランス	第5回		演繹的推論の方法と特質	第6回		帰納的推論の方法と特質	第7回		相関と因果	第8回		仮説演繹法の方法と特質	第9回	第3節 帰納の正当化と反証主義	帰納をめぐる難問と科学	第10回		帰納の正当化の試み	第11回		反証主義と科学	第12回	第4節 科学的实在論	科学的实在論論争の概略	第13回		「観察不可能な理論的対象」の扱い	第14回		科学的合理性の正当化の試み	第15回	学期末試験	
第1回	オリエンテーション	本授業の目標と内容																																															
第2回	第1節 科学哲学のねらい	科学と哲学：起源と差異																																															
第3回		自然主義の哲学																																															
第4回	第2節 科学の方法の検討	科学の特質：理論と経験のバランス																																															
第5回		演繹的推論の方法と特質																																															
第6回		帰納的推論の方法と特質																																															
第7回		相関と因果																																															
第8回		仮説演繹法の方法と特質																																															
第9回	第3節 帰納の正当化と反証主義	帰納をめぐる難問と科学																																															
第10回		帰納の正当化の試み																																															
第11回		反証主義と科学																																															
第12回	第4節 科学的实在論	科学的实在論論争の概略																																															
第13回		「観察不可能な理論的対象」の扱い																																															
第14回		科学的合理性の正当化の試み																																															
第15回	学期末試験																																																
<p>成績評価の方法</p> <p>学期末の試験、および授業期間中に課す4～5回程度の小レポート等により評価する。</p>																																																	
<p>テキスト・参考書等</p> <p>テキスト：戸田山和久（2005）『科学哲学の冒険』日本放送出版協会</p> <p>参考書：授業内容にそくして適宜紹介する。</p>																																																	
<p>履修上の留意点</p> <p>特になし。</p>																																																	
<p>備考</p> <p>授業期間中のレポート等に応えるため、内容を多少変更して講義する場合もある。</p> <p>平成20年度は第1・3・5・7セメスターで開講する。</p>																																																	

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
心理学 I	全学科選択	1～8	2	田中平八
授業の目標	人間は養育者の保護なしには生存できない絶対的依存状態で生まれてくる。そして、家族や社会の相互作用のなかで「こころ」を段階的に発達させ、社会的行動を身につけていく。依存から自立へと向かう人間の発達過程の特徴と青年期のさなかにいる学生諸君が自らの個性を前向きな姿勢で認識できるよう授業をすすめる。			
授業の概要・計画	<p>発達心理学、青年心理学、人格心理学、臨床心理学の領域から話題を選んで講義を行う。パーソナリティテストなども体験してみる。</p> <p>主なトピックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の能力と世界 ・親子の絆－愛着関係の成立と発展 ・認識・思考・言語の発達過程 ・性的成熟とアイデンティティの模索 ・依存と反抗 ・パーソナリティと個性 ・思春期の輝きと危機 ・学校・就職・恋愛・結婚・親業 			
成績評価の方法	学期末定期試験における論述の内容による。			
テキスト・参考書等	特に定めない。			
履修上の留意点				
備考	平成20年度は第1・3・5・7セメスターで開講する。			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
社会学 I	全学科選択	1・3・5・7	2	小松田儀貞
授業の目標	<p>「少子社会日本の現状と課題」 産業化社会のなかで、少子化、高齢化といった人口構造の変容、あるいはグローバル経済の拡大など様々な領域で大きな変化が進行している。こうした変化は、個人と家族のあり方、人々の働き方の変容を引き起こしている。今、日本社会で何が起こり、何が変わろうとしているのか。産業化社会の特質を理解することを通して、少子化の問題を軸に、これと切り離せない家族、労働、教育などに関わる今日的論点を取り上げ、現代日本社会の現状と課題について考える。</p>			
授業の概要・計画	<p>概要・計画と主なトピック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 産業化と社会変動 <ul style="list-style-type: none"> ・「高度成長」のインパクト ・都市と農村、過密化と過疎化 2 「近代家族」の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・人口構造、世帯構造の変化 ・「家」から核家族へ—ロマンティック・ラブの成立と衰退 3 働き方の変化と「近代家族」の変貌 <ul style="list-style-type: none"> ・労働力の女性化と性別役割分業 ・少子化進展の背景—日本社会の変容と結婚・出産動向の変化 ・個人化とパートナーシップの変容 4 家族と労働のゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ・労働と教育 —「ニート」、「フリーター」問題とは何か ・労働形態の柔軟化 ・「格差社会」の実相 ・少子社会のゆくえ 			
成績評価の方法	<p>期末のレポートと講義内の小レポートの総合評価</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：山田昌弘『少子社会日本—もうひとつの格差のゆくえ』岩波新書、2007年</p>			
履修上の留意点	<p>普段から、新聞、TVの報道、ニュースに関心を持つようにしておくこと。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
社会学Ⅱ	全学科選択	1・3・5・7	2	小松田儀貞
授業の目標	<p>「現代社会はどういう社会か ―― 〈近代〉を通して見る〈現代〉」 社会学は「関係としての人間の学」である。これをふまえ、前半は、歴史的に形成されたものとして社会を捉えることを通して、近代社会の基本的性格を「資本制」と「合理化」の視角から理解することをめざす。後半は、近代社会固有の論理の帰結として現代社会を理解することを通して、その可能性と課題を展望する。</p>			
授業の概要・計画	<p>概要・計画と主なトピック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「社会」とは何か <ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会を捉える視座 2 近代市民社会の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・自立した個人 ・自由と平等の歴史性 3 「資本制社会」としての近代 <ul style="list-style-type: none"> ・人間と労働 ―― 商品、貨幣、資本 ・疎外と物象化 4 「合理化過程」としての近代 <ul style="list-style-type: none"> ・宗教と合理化 ―― 「神」から「社会」へ ・官僚制と人間 5 〈近代〉の意味と現代社会 <ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の形成 ―― 「時代」の変容 ・「限界」か「臨界」か ―― 人間と社会の未来 6 未来社会の展望 <ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会の歴史性 ・未来社会の構想？ 			
成績評価の方法	<p>期末のレポートと小レポートの総合評価</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：見田宗介『社会学入門 ―― 人間と社会の未来』岩波新書、2006年</p>			
履修上の留意点				
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
総合科目Ⅰ 人間と環境	全学科選択	3・5・7	2	高橋秀晴、 紺野 祐、 田中平八 ○小松田儀貞、 谷内宏行
授業の目標	「人間と環境」をテーマに、総合的な視野から物事にアプローチする見方を養うとともにテーマに対する理解を深めることを目標とする。			
授業の概要・計画	<p>(概要) 「人間と環境」のテーマをもとに、人文・社会科学の教員がオムニバス方式で下記の授業を行う。</p> <p>(トピックス)</p> <p>A. 作家の生成過程について、環境との関わりという面から考察する。(高橋)</p> <p>B. 子どもの人間形成のプロセスにおいて環境要因がどのように影響しうるかを、とくに危機的状況に直面した場合に示される“レジリエンス”現象にそくして考察する。(紺野)</p> <p>C. 自然景観や人工景観(例えば建物とか)を認識する心的な仕組みを、環境心理学の視点から紹介する。さらに、人間関係に比べて比較的軽視されがちな、物理的環境の側面が人の心的な状態を改善する道筋にも言及する。(田中)</p> <p>D. 「自然的-社会的存在としての人間」という認識を基盤に、人間と環境の相互的かつダイナミックな関係の諸相について学習する。(小松田)</p> <p>E. 人間の経済活動に伴う環境問題について学習し、経済の持続的発展を達成するために利潤追求と環境保全を調和させる社会経済システムについて考察する。(谷内)</p>			
成績評価の方法	レポート。提出方法および時期については、第1回目の授業ならびに期末の掲示の中で指示する。			
テキスト・参考書等	テキストは指定しないが、参考書は各教員が適宜指示する。			
履修上の留意点	オムニバス形式の授業の詳細は、初回の授業において説明する。			
備考				

外国語科目

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
CALL I	全学科必修	1	2	高橋 守、 檜山 晋 S. Shucart、 榎木 蘭鉄也
授業の目標	日常的なコミュニケーションの場での、ナチュラルなスピードで比較的平易な基本的な英語を聞き取り、反応し、さらに自己の考えを表現できるようにする。			
授業の概要・計画	1. Unit Zero Orientation (1-15回の授業は『English Firsthand New Gold 1』を使用します) 2. Unit1 Meeting new people 3. Unit2 Describing people 4. Unit3 Talking about daily activities 5. Unit4 Describing locations 6. Unit5 Giving directions 7. Unit6 Talking about past activities 8. Mid-term test (1) 9. Unit7 Who's talking? 10. Unit8 Getting information 11. Unit9 Talking about plans 12. Unit10 Let's go shopping 13. Unit11 Following instructions 14. Unit12 I love that tune 15. Mid-term test (2) 16. Unit1 It's nice to meet you (16-30回の授業は『English Firsthand New Gold 2』を使用します) 17. Unit2 I feel great! 18. Unit3 Where are you going? 19. Unit4 Talking about interests 20. Unit5 I'm really sorry 21. Unit6 Talking about culture 22. Mid-term test (3) 23. Unit7 Then and now 24. Unit8 What do we need? 25. Unit9 I've got a problem 26. Unit10 A great story 27. Unit11 What makes a good friend? 28. Unit12 Reaching my goals 29. Final test (4) 30. Evaluatio			
成績評価の方法	出席状況、セメスター中に実施する中間試験・期末試験の結果、授業への参加度（授業毎の参加状況）により総合的に判断する。			
テキスト・参考書等	テキスト：Marc Helgesen著『English Firsthand New Gold 1』『English Firsthand New Gold 2』 Longman社 各2,730円			
履修上の留意点	テキストと辞書を必ず授業に持参すること。			
備考	辞書は次の2冊のうちどちらかを選んで必ず購入すること。（これら2冊のどちらかを既に持っている人は、改めて購入する必要はありません。これらの辞書は英語学習用辞書であり、専門書を読むための大型辞書ではないので、専門の勉強用には改めて別の辞書を用意してください。） 『ニュープロシード英和辞典』Benesse 2,800円、『ジーニアス英和辞典』大修館 3,465円 各学科共通（各年度前期）			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
総合英語Ⅱ	全学科選択	3	2	Stephen Shucart
授業の目標	The aim of this course is to use an adaptation of an American High School Science textbook to teach English for Special Purposes [ESP]			
授業の概要・計画	<p>The methodology of this class is based on Neal Anderson's 'Active reading', and provides a way to improve the student's comprehension of basic scientific knowledge as presented in a high school science textbook written for native English speakers. Using this method, the student's basic background knowledge of science will be tapped as a source of comprehensible input.</p> <p>Topics covered in the class include:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The Nature of Science 2. The Way Science Works 3. What is Matter 4. Properties of Matter 5. Atomic Structure 6. Dangers and Benefits of Nuclear Radiation <p>This class will also provide experimental linguistic data for a research project based on using an Apple iPod to provide essays on relevant scientific topics in the mp3 format.</p>			
成績評価の方法	Students will be graded on attendance, Homework and Tests			
テキスト・参考書等	Holt Science Spectrum; A Balanced Approach			
履修上の留意点	Students must bring a dictionary to class			
備考	This class will require a lot of reading.			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
英会話	全学科選択	3	2	Stephen Shucart
授業の目標	The aim of this course is to improve the conversational ability of the students.			
授業の概要・計画	<p>This class is focused on improving conversational ability through the four modalities. First the students will read the conversations in the text at home and provide written answers to the homework comprehension questions based on their reading.</p> <p>Then they will listen to conversations in the target section on the movie, both with English subtitles and with Japanese subtitles. During the viewing the students are required to complete a short film quiz to their comprehension.</p> <p>Finally the students will be put into small groups and they will discuss the key philosophical and pragmatic ideas and major points of the movie.</p> <p>When taking the tests, the students will be required to write detailed predictions of possible future story lines based on the ideas and key plot points of the movies.</p> <p>The complex mythological interconnectedness of the three movies will also be emphasized.</p>			
成績評価の方法	The students will be graded on the basis of attendance, class participation, homework and three quizzes.			
テキスト・参考書等	The tests will be 'Star Wars IV – A New Hope' ; 'Blade Runner' ; and 'The Matrix- Screenplay'. 'Star Wars' and 'Brade Runner' texts will be supplied. You must purchase 'The Matrix'.			
履修上の留意点	Students must bring a dictionary to class.			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
英文講読 I	全学科選択	3	2	檜山 晋
授業の目標	TOEIC形式の問題演習を通して、実用的な英語力をつける。			
授業の概要・計画	<p>1回の授業で教科書を1課扱い、さまざまな場面で使われる表現、文法を学習する。教科書には14課までであるが、そのうちの12課程度（1課から12課）を授業で扱う予定。</p> <p>1. Chapter 1 Business Trips 2. Chapter 2 Taking a Vacation 3. Chapter 3 School Life 4. Chapter 4 Amusement 5. Chapter 5 Dining 6. Chapter 6 Doing Some Shopping 7. Chapter 7 Weather Report 8. Chapter 8 Telecommunication 9. Chapter 9 At an Office 10. Chapter 10 At a Hospital 11. Chapter 11 Commercial Transactions 12. Chapter 12 Economic Growth 13. Chapter 13 Tourism 14. Chapter 14 Automobile Society</p>			
成績評価の方法	<p>点数配分（予定）：出席・クイズ・課題提出（50%）＋定期試験（50%）＋平常点（%は非公開）。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：石井隆之・山口修・馬渡秀幸・John Eidswick・Thomas Koch（共著）『<i>Complete Tactics for the TOEIC Test</i>（TOEICテスト 完全演習）』 成美堂 2,100円</p>			
履修上の留意点	<p>テキストと辞書を持参すること。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講シスター	単位数	担当教員名
英文講読Ⅲ	全学科選択	5	2	榎木 薫鉄也
授業の目標	内容、言語材料ともに更にレベルの高い教材を読ませる。専攻の専門への導入となる評論分を正確な理解力を持って解釈できるようになることを目標とする。			
授業の概要・計画	<p>TOEIC問題集のReading問題を実際に解きながら、重要な語句や構文を習得したい。テキストの他に、読解用の投げ込み教材も用いる予定。問題集の進度や授業のやり方は、第1回目の授業で相談したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Part VとPart VIの解き方+第1回模試問題演習 3. Part VIIの解き方+第1回模試問題演習 4. 第1回模試問題演習 5. 第1回模試問題演習 6. 第2回模試問題演習 7. 中間テスト 8. 第2回模試問題演習 9. 第2回模試問題演習 10. 第3回模試問題演習 11. 第3回模試問題演習 12. 第3回模試問題演習 13. 期末テスト 14. テスト返しと総復習 			
成績評価の方法	提出物と授業参加 (40%)、テスト (60%)、その他の加点措置 (+α)			
テキスト・参考書等	テキスト：中村紳一郎・Susan Anderson・神崎正哉・小林美和『TOEIC®テスト新最強トリプル模試2』 ジャパンタイムズ 1,890円			
履修上の留意点	テキストと辞書を持参すること。			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セスター	単位数	担当教員名
英文講読IV	全学科選択	7	2	高橋 守
授業の目標	内容、言語材料ともに更にレベルの高い教材を読ませる。専攻の専門への導入となる評論文を正確な理解力をもって解釈できるようになることを目標とする。			
授業の概要・計画	<p>英語で書かれた評論文の構成を学び、英文を読む技術を身につける。学習者が興味を持って学ぶ事が出来るように、評論文の題材は現代生活に直結した話題となっている。</p> <p>ユニット毎の話題と授業の進み方は、以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The Persian New Year 世界のお祝いについて 2. Louis Braille アルファベット点字の発明者について 3. Lightning 雷について 4. Laws About Children 子供に関する法律について 5. A Poem: "This is Just to Say" 詩について 6. 復習 7. 1－5の試験 8. A Folktale: Stone Soup 民話について 9. Right Brain or Left Brain 右脳と左脳について 10. The Shape of the Face 顔の形について 11. Potatoes ジャガイモについて 12. Delicacies 御馳走について 13. 復習 14. 8－12の試験 15. まとめのアクティビティ 			
成績評価の方法	出席 (20%)、多読 (20%)、2回の試験 (10%+10%)、宿題 (20%)、小テスト (20%)			
テキスト・参考書等	テキスト：Milada Broukal 著『Weaving It Together 2』(Thomson/Heinle) 2,730円			
履修上の留意点				
備考	テキストは、平成19年度「英語表現」で使用したものを再び使用する。			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
英語表現	全学科選択	5	2	高橋 守
授業の目標	説得力を持つ英語文章を作成し、自分の意見を英語で表現する基本的な技術を習得する。			
授業の概要・計画	<p>英語で文章を書く技術を学ぶ。特に課題に基づいて読み手が理解しやすい文章を書くために必要なテクニックを学ぶ。話す、聞く、読む、活動も同時に行い、無理なく英語力がアップできるようにする。</p> <p>ユニット毎の話題と授業の進み方は、以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 1 : Chapter 1 Writing an essay パラグラフの構成要素について知る 2. Unit 1 : Chapter 1 Topic sentence トピック・センテンスを書く 3. Unit 1 : Chapter 2 Parts of an essay エッセイの構成要素について知る 4. Unit 1 : Chapter 2 Essay outline アウトラインを書く 5. Unit 2 : Chapter 3 Describing a sequence of events 時間軸に従って書くことを知る 6. Unit 2 : Chapter 3 Writing about an important celebration お祝いについて書く 7. Unit 2 : Chapter 4 Wring conclusions 結論の書き方を知る 8. Unit 2 : Chapter 4 Writing about a local custom or event 地域の習慣について書く 9. Unit 3 : Chapter 5 The example essay 例の挙げ方を知る (for example) 10. Unit 3 : Chapter 5 Writing about someone's personality 誰かの性格について書く 11. Unit 3 : Chapter 6 The example essay 例の挙げ方を知る (such as) 12. Unit 3 : Chapter 6 Writing about health problems and remedies 病気と対処について書く 13. Unit 4 : Chapter 7 Descriptive essay 描写の仕方を知る 14. Unit 4 : Chapter 7 Describing people 人を描写する 15. まとめ 			
成績評価の方法	出席 (20%)、読む宿題 (20%)、多読の宿題 (20%)、作文の宿題 (20%)、小テスト (20%)			
テキスト・参考書等	テキスト : Milada Broukal 著『Weaving It Together 3』(Thomson/Heinle) 2,730円			
履修上の留意点				
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
実践英語Ⅱ	全学科選択	5	2	榎木 薫鉄也
授業の目標	<p>実践的な英語力をさらに高めることを目指した授業を行う。バランスよく英語力を伸ばすことのできる教材を用いて、英検やTOEICにも対応できるようにする。</p>			
授業の概要・計画	<p>TOEIC問題集を実際に解きながら一通りこなし、併せて重要な語句や文法を習得したい。問題集の進捗や授業のやり方は、授業中に適宜相談して決めたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. PartⅠとPartⅡの解き方＋第1回模試問題演習 3. PartⅢとPartⅣの解き方＋第1回模試問題演習 4. PartⅤとPartⅥの解き方＋第1回模試問題演習 5. PartⅦの解き方＋第1回模試問題演習 6. 第2回模試問題演習 7. 中間テスト 8. 第2回模試問題演習 9. 第2回模試問題演習 10. 第3回模試問題演習 11. 第3回模試問題演習 12. 第3回模試問題演習 13. 期末テスト 14. テスト返しと総復習 			
成績評価の方法	<p>提出物と授業参加（40%）、テスト（60%）、その他の加点措置（+α）</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：中村紳一郎・Susan Anderson・神崎正哉・小林美和『TOEIC®テスト新最強トリプル模試2』 ジャパンタイムズ 1,890円</p>			
履修上の留意点	<p>テキストと辞書を持参すること。</p>			
備考				

保健体育科目

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
体育実技 I	選択 (機械A)	1	1	長澤吉則
授業の目標	<p>本授業では、適切な身体運動・スポーツ活動が心身の健康に良い影響を与えることを、主体的に選択したスポーツ種目の実践を通して理解する。また、スポーツの楽しさをより深く理解するために必要なルールやマナー、スポーツ技術および基礎的戦術を理解し、身につける。安全に身体運動・スポーツ活動を行うための適切なウォーミングアップと、クーリングダウンを主体的に実践できるよう身につける。</p>			
授業の概要・計画	<p>授業の目的を達成するために、実践に必要な施設用具の整ったスポーツ種目（テニス、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球その他）の中から、受講生が主体的に選択したスポーツ種目をゲーム中心に実践する。また、準備運動、整理運動の重要性を理解させ、事故防止の高揚に努める。なお、ゲーム中心に実践するので、施設の関係や選択者が少なくチーム編成ができない場合には、実施種目を制限することもある。また、雨天時には実施種目の変更もあり得る（例1. トレーニング施設を利用した体力・健康維持増進プログラムを実践する。例2. 屋内競技にフットサルを取り入れる等）</p> <p>第 1 週：学習課程（目的、意義、内容、成績等）の説明。スポーツ種目の選択（グルーピング）。 第2～7週：各スポーツ種目の基本技術の確認と習得、ルールの確認と理解。 （第1選択）試しのゲームあるいはミニゲームの実践。 ゲームの分析、戦術の検討、技能と体力、運動能力との関係の検討。 ゲームの観察、勝敗に対する検討、ゲームによる身体的精神的スキル評価。</p> <p>第 8 週：ゲーム運営のまとめ 第 9 週：スポーツ種目の選択（グルーピング）。 第10～14週：各スポーツ種目の基本技術の確認と習得、ルールの確認と理解。 （第2選択）試しのゲームあるいはミニゲームの実践。 ゲームの分析、戦術の検討、技能と体力、運動能力との関係の検討。 ゲームの観察、勝敗に対する検討、ゲームによる身体的精神的スキル評価。</p> <p>第 15 週：ゲーム運営のまとめ</p>			
成績評価の方法	<p>出席状況、授業時の活動状況、学習意欲を特に重視し、レポート等により達成度を評価する。総合評価は、出席状況が50%、活動状況が30%、学習意欲20%とする。レポート課題は見学回数が多い者に課し、出席状況に加点する。評価の対象としない欠席（割合）条件は、1/4以上とする。</p>			
テキスト・参考書等	<p>参 考 書：大修館書店編集部編『最新スポーツルール百科2007』 大修館書店 ￥1,680</p>			
履修上の留意点	<p>あらかじめスポーツ種目（テニス、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、フットサル）のルールを予習していることが望ましい。</p>			
備考	<p>スポーツ活動に適した服装や履物（屋内・屋外用）を準備すること。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
体育実技Ⅱ	選択 (機械B・経営)	3	1	長澤吉則
授業の目標	<p>本授業では、適切な身体運動・スポーツ活動が心身の健康に良い影響を与えることを、主体的に選択したスポーツ種目の実践を通して理解する。また、スポーツの楽しさをより深く理解するために必要なルールやマナー、スポーツ技術および基礎的戦術を理解し、身につける。安全に身体運動・スポーツ活動を行うための適切なウォーミングアップと、クーリングダウンを主体的に実践できるよう身につける。</p>			
授業の概要・計画	<p>授業の目的を達成するために、実践に必要な施設用具の整ったスポーツ種目（テニス、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球その他）の中から、受講生が主体的に選択したスポーツ種目をゲーム中心に実践する。また、準備運動、整理運動の重要性を理解させ、事故防止の高揚に努める。なお、ゲーム中心に実践するので、施設の関係や選択者が少なくチーム編成ができない場合には、実施種目を制限することもある。また、雨天時には実施種目の変更もあり得る（例1. トレーニング施設を利用した体力・健康維持増進プログラムを実践する。例2. 屋内競技にフットサルを取り入れる等）</p> <p>第 1 週：学習課程（目的、意義、内容、成績等）の説明。スポーツ種目の選択（グルーピング）。 第2～7週：各スポーツ種目の基本技術の確認と習得、ルールの確認と理解。 （第1選択）試しのゲームあるいはミニゲームの実践。 ゲームの分析、戦術の検討、技能と体力、運動能力との関係の検討。 ゲームの観察、勝敗に対する検討、ゲームによる身体的精神的スキル評価。</p> <p>第 8 週：ゲーム運営のまとめ 第 9 週：スポーツ種目の選択（グルーピング）。 第10～14週：各スポーツ種目の基本技術の確認と習得、ルールの確認と理解。 （第2選択）試しのゲームあるいはミニゲームの実践。 ゲームの分析、戦術の検討、技能と体力、運動能力との関係の検討。 ゲームの観察、勝敗に対する検討、ゲームによる身体的精神的スキル評価。</p> <p>第 15 週：ゲーム運営のまとめ</p>			
成績評価の方法	<p>出席状況、授業時の活動状況、学習意欲を特に重視し、レポート等により達成度を評価する。総合評価は、出席状況が50%、活動状況が30%、学習意欲20%とする。レポート課題は見学回数が多い者に課し、出席状況に加点する。評価の対象としない欠席（割合）条件は、1/4以上とする。</p>			
テキスト・参考書等	<p>参 考 書：大修館書店編集部編『最新スポーツルール百科2007』大修館書店 ￥1,680</p>			
履修上の留意点	<p>あらかじめ体育実技Ⅰを履修していることが望ましい。</p>			
備考	<p>スポーツ活動に適した服装や履物（屋内・屋外用）を準備すること。</p>			